

記 録

目 次

令和4年度教育実践協同研究推進委員会の活動	(105)
2022年度（令和4年度）研究会名簿	(107)
研究会活動記録	
国語科研究会	(108)
社会科研究会	(108)
算数・数学科研究会	(108)
理科研究会	(108)
音楽科研究会	(109)
図工・美術科研究会	(109)
保健体育科研究会	(109)
技術科研究会	(109)
家庭科研究会	(110)
英語科研究会	(110)
養護教諭・教育保健研究会	(110)
幼児教育研究会	(110)
生徒指導・教育相談研究会	(111)
道德教育研究会	(111)
特別支援教育研究会	(111)
教育実践協同研究通信（4年度1号～3年度6号）	(112)

教育実践協同研究推進委員会の活動

1 推進委員会の開催

第1回推進委員会（対面）

令和4年（2022年）4月18日、第1回教育実践協同研究推進委員会を開催した。内容は以下の通り。

① 事業内容

- (ア) 定例研究会日程の決定 年間5回の協同研を開催する。
- (イ) 弘前大学教育学部附属学校共同研究奨励費の募集
- (ウ) 全体会の開催 5月11日、1月18日
- (エ) 『クロスロード』の編集・発行
- (オ) 学部・附属教員合同懇親会
5月 学部・附属教員合同懇親会の中止 11月 公開研の際に茶話会を実施

② 組織編成

- | | | |
|----------|--------|----------------------------------|
| 委員長 | 宮崎充治 | (学部長委嘱 2022. 4. 1 - 2023. 3. 31) |
| 副委員長 | 清水 稔先生 | 2022. 4. 1 - 2023. 3. 31 |
| | 佐藤一幸先生 | 2022. 4. 1 - 2023. 3. 31 |
| 協同研通信担当 | | |
| 幼児教育 | 松本恵美先生 | |
| クロスロード担当 | | |
| 理科 | 佐藤崇之先生 | |

研究推進委員会 委員（2年任期）教育実践協同研究推進委員会から1名選出
宮崎充治委員長が兼任

各校園の研究主任と協同研推進委員会の正副委員長で研究推進部を組織する。

③ 合同公開研

附属学校園四校の公開研究会を合同公開研として実施する。
発表教科は東北附連のサイクルに合わせて限定して実施する。（本年度は国語・理科・音楽）
今年度は隔年実施の幼稚園、特別支援学校は、公開研究は行わない。
対面開催を前提として、準備するが、オンラインでも対応する。

④ クロスロードの紙媒体冊子を廃止する方向で検討する。

リボジトリに電子ファイルを置くことに伴う問題を検討する。

第2回推進委員会（紙上会議） 令和4年10月17日～21日

クロスロード投稿規定の改訂

著者に本学部教員が含まれない場合には、関連する領域の本学部教員が論文を確認するものを旨とする提案を行った。

その後、この規定の決定過程をめぐって質疑が行われる。

公開研の講演会の終了後、その場（小学校体育館）で協同研の懇親会の開催

第3回推進委員会（紙上会議） 令和4年11月24日～28日

クロスロードの電子化（紙媒体の廃止）に伴い、「規定14を改定する」という意見を取り下げ、投稿に

あたっての「覚書」を示し、今年度号（第27号）より、投稿にあたってのチェック項目を求め、これを11月30日の協同研定例会各研究会にはかることとする。

2 各研究会を中心とした附属と学部・大学院との日常的な連携による研究活動

定例研究会は、5月11日、7月6日、11月30日、1月18日、2月1日の5回を設定した。各会はいずれも原則的には、水曜日の16:00～17:30に行われた。

11月30日には、クロスロードに覚書をつけることについての議題を加えた。

1月18日は全体会とし、令和5年度の公開研の基本方針を決定し、合同で行い、昨年度と同様「自ら考え、自律的に行動する子の育成」をテーマとすることを決定した。

附属学校園における研究の在り方と保護者への周知方法の方向性について報告した。

3 合同公開研究会の開催

令和4年度の公開研は2回目の合同開催、教科限定（国語、理科、音楽）ライブでの授業公開、オンラインと対面のハイブリッドで実施するという初の取り組みとなった。また、課題研究として「スタートカリキュラム」を幼小連携して。各校園の「自律」についてヒロフカフェとして交流を行った。

4 「協同研通信」の発行、情報共有

定例研究会の予定と報告を中心に構成し、定期発行の5回発行した。また、Teams上に「All教育学部」のTeamを作成し、情報の共有ができるようにした。

5 研究紀要「クロスロード」の編集・発行

6 弘前大学教育学部附属学校共同研究奨励費の募集（附属4校園運営会議と連携）

学部・附属の共同研究とすることを確認し、申請期間、研究期間の改正を行った。

この結果、第一期 8件、第二期8件の申請があり、全件採択した。

2022年度（令和4年度）研究会名簿

国語科研究会	
学部	郡 千寿子
学部	鈴木 愛理
学部	山田 史生
学部	田中 拓郎
学部	帆 莉基生
小学校	高橋 眞弓
小学校	高橋 憲
小学校	石澤 香
小学校	葛西 航
中学校	駒井 陽子
中学校	樋口 薫
中学校	小山田 朱美
中学校	今井 礼子
教職大学院	三和 聖徳

理科研究会	
学部	山本 逸郎
学部	佐藤 松夫
学部	長南 幸安
学部	島田 透
学部	田中 浩紀
学部	岩井 草介
学部	佐藤 崇之
小学校	菅原 雄貴
小学校	木村 智里
中学校	伊藤 隆
中学校	村田 正治
中学校	池原 和沙
中学校	齋藤 克正
中学校	小林 和史
中学校	山田 暁

保健体育研究会	
学部	戸塚 学
学部	高橋 俊哉
学部	上野 秀人
学部	益川 満治
学部	杉本和那美
小学校	梶 雄一朗
小学校	阿保 秀歩
小学校	工藤 理姿
中学校	工藤 武志
中学校	對馬 慎太郎
中学校	羽村 麻美
特別支援	中嶋 実樹
特別支援	對馬 大成

道徳教育研究会	
学部	森本 洋介
学部	福島 裕敏
学部	吉崎 聡子
小学校	工藤 愛美
小学校	浅利 善仁
中学校	佐々木 篤史
特別支援	木村 亮
特別支援	附田 翔太郎
教職大学院	菊地 一文

幼児教育研究会	
学部	武内 裕明
学部	松本 恵美
学部	増田 貴人
学部	宮崎 充治
学部	中村 恵佑
幼稚園	三浦るみ子
幼稚園	松山 祐子
幼稚園	加藤 結衣子
幼稚園	岩崎 恵
幼稚園	竹内 芳子
幼稚園	今井 旬子
特別支援	千葉 麻奈美
特別支援	阿保 英人
特別支援	渡邊 加世子

社会科研究会	
学部	大谷 伸治
学部	小岩 直人
学部	蒔田 純
学部	高瀬 雅弘
学部	小瑤 史朗
学部	宮崎 充治
小学校	今 伸仁
小学校	佐藤 一幸
小学校	櫻庭 卓也
中学校	佐々木 篤史
中学校	福井 操
中学校	工藤 廉
中学校	武田 明日佳
教職大学院	若松 大輔
教職大学院	吉田 美穂
教職大学院	中谷 保美

音楽科研究会	
学部	今田 匡彦
学部	杉原 かおり
学部	朝山 奈津子
学部	清水 稔
学部	小田 直弥
小学校	木村 麻美
小学校	工藤 隆夫
中学校	齋藤 素子
特別支援	小枝 洋平
特別支援	鎌田 麻里

技術科研究会	
学部	勝川 健三
学部	櫻田 安志
学部	上之園 哲也
学部	廣瀬 孝
中学校	高谷 治男
特別支援	工藤 清和
特別支援	三橋 寛子

養護教諭・教育保健研究会	
学部	葛西 敦子
学部	田中 完
学部	新谷 ますみ
学部	原 郁水
学部	相馬 優樹
幼稚園	大高 景子
小学校	高橋 千晶
中学校	西岡 丸佳
特別支援	派谷 ミカ
教職大学院	小林 央美

生徒指導・教育相談研究会	
学部	田名場 忍
学部	吉中 淳
学部	新川 広樹
小学校	浅利 善仁
中学校	工藤 武志
特別支援	對馬 大成
特別支援	小沼 順子
教職大学院	吉原 寛
教職大学院	土岐 賢悟
教職大学院	甲田 隆
教職大学院	桐村 豪文

算数・数学研究会	
学部	伊藤 成治
学部	上山 健太
学部	田中 義久
学部	山本 稔
学部	吉川 和宏
小学校	齋藤 敏一
小学校	葛西 久司
小学校	尾崎 珠巳
小学校	赤垣 由希子
中学校	八木橋 卓矢
中学校	村上 和嗣
中学校	大野 遥風
中学校	齋藤 康広
中学校	丹藤 博之
中学校	奈良岡 寛大
教職大学院	中野 博之

図工・美術研究会	
学部	塚本 悦雄
学部	出 佳奈子
学部	佐藤 光輝
学部	富田 晃
学部	佐藤 絵里子
小学校	坂本 卓也
小学校	八嶋 孝幸
中学校	蒔苗 靖子
特別支援	藤田 依里子

家庭科研究会	
学部	安川 あけみ
学部	李 秀真
学部	小野 恭子
学部	加賀 恵子
学部	谷本 憂太郎
小学校	佐藤 沙織
小学校	小田 桐由佳
小学校	菊地 純子
中学校	三上 真喜子

特別支援教育研究会	
学部	増田 貴人
学部	中山 忠政
学部	天海 丈久
特別支援	川村 泰弘
特別支援	大塚 亮子
特別支援	西谷 倫子
特別支援	鳥潟 昌也
特別支援	鳴海 愛子
特別支援	小林 泰子
特別支援	加賀谷 紀
特別支援	佐藤 珠美
特別支援	柏原 理紗
特別支援	千葉 嵩将
特別支援	手塚 公志朗
特別支援	佐々木 美鶴
特別支援	石橋 想

英語研究会	
学部	近藤 亮一
学部	佐藤 剛
学部	土屋 陽子
学部	野呂 徳治
学部	A.S.Rausch
小学校	田中 久絵
小学校	大野 雅子
小学校	工藤 麻乃
特別支援	梶 聡子
特別支援	棟方 喜子
中学校	野呂 香
中学校	藤元 公德
中学校	三上 工力
中学校	三上 昌憲
中学校	安江 雅典
教職大学院	宍倉 慎次

国語科研究会

成果と課題

国語科研究会では、例年通り、公開研についての討議や読書会を通しての教材研究を行った。成果としては、小学校・中学校の教材について意見を交流することにより、児童・生徒が授業でよく行っている〈話し合いを通じて読みを深める〉という活動についてより深く理解できたことである。また他校種の教材についての知見を広げ深めることもできた。教科書教材以外の文章と読みを横断する可能性についても話題にあがったが、探究には至らなかったため、今後の課題としたい。

(文責：鈴木 愛理)

社会科研究会

成果と課題

今年度も「小中連携」を柱に位置づけて、4回にわたる研究会活動を進めてきた。第1回目は「目指すべき子ども像」をテーマに据えて、附属小・中の教育目標のすり合わせを行った。第2回目は教育目標を実現するための手立てを検討した。第3回目は東北附連における取組を素材に社会科をめぐる実践的動向を探った。そして、第4回目は次年度の公開研に向けて「個」と向き合う教育実践研究の意義と可能性について検討した。次年度の公開研に向けて、小中間での課題意識の共有化を進めていきたい。

(文責：小瑶 史朗)

算数・数学研究会

成果と課題

今年度は、異動に伴い、新たに2名の先生を研究会にむかえることができた。第1回、第2回の協同研では、校内研(小学校)の授業に関する学習指導案の検討、および、一人一研(中学校)の授業に関する学習指導案の検討を行った。第3回、第5回では、授業プロトコル資料等を用いて実践後の省察を行った。「指導と評価の一体化」が求められている今日、よりよい評価を意識した指導計画や授業づくりを継続的にやっていくことが課題である。

(文責：田中 義久)

理科研究会

成果と課題

第1回および第2回では、今年度の合同公開研究会に関する要望や対処について、情報交換を行った。第3回では、学部の田中浩紀先生、島田透先生がそれぞれ附属学校で実施した授業について紹介した。これらは、今後の附属学校と学部の協力の強化につながると考えられる。そのほか、筆者がある地域の教員研修で使用したSTEAM教材について紹介した。第5回は3年後の公開研究会の担当に向けてのロードマップの確認を行った。

今後も、公開研(校内研や部内研などを含む)の検討を軸としつつも、附属学校、学部双方の情報発信を行うことを考えている。

(文責：佐藤 崇之)

音楽科研究会

成果と課題

本年度は、附属四校園の第2回合同公開研究会において小中合同の研究授業を実施した。木村教諭、齋藤教諭、工藤教諭の3名により、サウンドウォークと図形楽譜による音楽づくりが行われ、児童生徒の成長と達成感が見られた。また、附属特別支援学校の小枝教諭を中心に、QRコードを使った創作の交流実践も行われ、こちらも、昨年度からの継続された成果が見られた。実践の成果から研究の方向性が明確になってきており、今後も、実践に基づいたデータの蓄積と考察を継続していきたい。

(文責：清水 稔)

図工・美術科研究会

成果と課題

本年度は学部には佐藤絵里子先生、特別支援学校に藤田依里子先生を新たに迎え、フレッシュな風が流れた。また佐藤絵里子先生は造形遊びについて、藤田依里子先生は特別支援学校の造形展についての発表をしていただき、おおいに勉強になった。来年度も充実した研究会にしていきたい。

(文責：富田 晃)

保健体育科研究会

成果と課題

成果は、附小・附中・附特支・大学の参加により保健体育・健康教育の構想及び実践の段階で、情報共有と意見交換が定期的に行われ深化できたこと。特に、協同研統一テーマを保体研究会で昨年と本年度の実践をもとに関連づけられつつあることがあげられる。また、健康教育を持続できており「まとめ」を作成予定である。課題は、実践後の協議が整理され実践者へ還るよう工夫が必要と考える。

(文責：上野 秀人)

技術科研究会

成果と課題

今年度は、昨年度に引き続き今年度東北大会にて発表を予定していた「生物育成」に関するアンケートに関して、研究活動を推進してきた。また、各回の協議の中で、附属学校および大学が双方の情報に関して交換し、最新の研究や現状、課題等に対する相互理解を深めながら、情報共有することができた。

今後、附属学校および大学が協力し合える研究テーマ等を探り、新たな協同研究等につなげていく予定である。

(文責：廣瀬 孝)

家庭科研究会

成果と課題

「調理実習における安全教育」をテーマに、小・中・大が連携して実践研究に取り組んだ。初めて集団調理を行う小学校5年生を対象に、サーモシールを用いた実験を取り入れた安全教育カリキュラムの開発と実践による検証を行った。成果と課題は、附属小の拡大発表会（ひろだいふしょうオンライン学習サークルどしてらんずーむ）で報告され、オンライン配信された。今後は、IHコンロを使用した調理実習における安全教育や、実生活にいかすための手だて等の検討を行う予定である。

なお、本研究は共同研究奨励費の助成を受けたものである。

（文責：加賀 恵子）

英語科研究会

成果と課題

本年度、英語科研究会は例年よりも大人数の17名体制となり、定例会ではより多様な意見を交換することが出来た。定例会では主に、令和5年度の公開研にむけて、附属小・中学校が連携した授業を行うことの可能性について意見を交わした。前回の公開研での反省も活かし、有意義な議論を交わすことが出来た。今後も引き続き小・中連携した英語教育の可能性を検討していき、公開研へつなげたい。

（文責：土屋 陽子）

養護教諭・教育保健研究会

成果と課題

今年度は、東北附連の発表に向けて、附属中学校においてChromebookを活用した健康観察とあわせて収集されている「心の天気」の有効性を検討した。その結果、「心の天気」で「くもり」や「雨」を多く示している生徒は、全体的に抑うつ傾向が強いことがわかった。今後さらに検討を重ね、本誌での掲載など研究成果の公表を目指す。また、保健室において集積されているデータを活用した研究を行う体制が整ったため、幼児・児童・生徒の健康増進に役立つようなエビデンスの構築を進めていきたい。

（文責：相馬 優樹）

幼児教育研究会

成果と課題

本研究会には、附属幼稚園教員と学部教員に加え、附属特別支援学校教員にも参加いただいている。本年度は、「自律性」「遊び込む子どもを育む保育」「協同性」を主題として情報共有や意見交換を行った。撮影した動画を使用したビデオカンファレンスを行ったり、附属特別支援学校教員から事例の発表および施設紹介をしていただいたりすることを通して、主題についての理解を深め、現場における課題の解決に向けてより具体的な議論を行うことができた。次年度も引き続き、構成員間の積極的な意見交換を重視し、充実した研究会にしていきたい。

（文責：松本 恵美）

生徒指導・教育相談研究会

成果と課題

本年度の生徒指導・教育相談研究会の活動は、附属小・中学校、附属特別支援学校から教育相談に関わる事例を提供いただき、各分野の専門的見地を踏まえて意見交換を行うという形式で実施した。成果として、いじめや不登校などの個別具体的な事例の解決策が提案されただけでなく、学校教育の構造的な課題にまで議論が及び、学校の教育相談システムを機能させるための先進的な取り組みについても共有する機会を得ることができた。課題として、多様な事例を扱うための共通のフォーマットが各校において存在せず、事例に関する資料を準備するためにリソースを割く必要があったことが挙げられる。

(文責：新川 広樹)

道徳教育研究会

成果と課題

本年度は特別支援教育における道徳教育のあり方についてを中心に議論を行い、実際に附属特別支援学校での通常授業を観察したり、特別支援学校での道徳授業の検討を行ったりした。また小学校低学年における道徳授業の方向性についても検討した。「考える道徳」、「議論する道徳」が求められる中で、認知発達の段階や特性上、考えたり議論したりすることに困難がある子どもたちへの道徳教育についてどのようにアプローチするのか、本年度議論・検討したことは、着手したこと自体は成果であり、どのように深めていくのかは課題である。

(文責：森本 洋介)

特別支援教育研究会

成果と課題

2022年度は、特別支援学校の教諭からの事例提供による検討（2回）と学部教員からの話題提供（1回）を行った。事例提供による検討（2回目）では、グループごとに活動を提案するようにし、実践に反映できるようにした。検討を行った事例について、その後の経過の報告も含め、単発の検討に終わらないようにすることが、課題であった。

(文責：中山 忠政)

教育実践協同研究通信

No.1 (2022.5.9)

◆ 協同研委員会より ◆

令和4年度定例研究会の日程

第1回	5月 11日 (水)	第3回	11月 30日 (水)
第2回	7月 6日 (水)	第4回	1月 18日 (水)
公開研	11月 5日 (土)	第5回	2月 1日 (水)

本年度の協同研委員一覧

委員長：宮崎 充治 副委員長：清水 稔，佐藤 一幸

国語科研究会	鈴木 愛理	養護教諭・教育保健研究会	相馬 優樹
社会科研究会	小幡 史朗	幼児教育研究会	松本 恵美
算数・数学研究会	田中 義久	生徒指導・教育相談研究会	新川 広樹
理科研究会	佐藤 崇之	道徳教育研究会	森本 洋介
音楽科研究会	清水 稔	特別支援教育研究会	中山 忠政
図工・美術科研究会	富田 晃	附属幼稚園	松山 祐子
保健体育科研究会	上野 秀人	附属小学校	佐藤 一幸
技術科研究会	廣瀬 孝	附属中学校	藤元 公徳
家庭科研究会	加賀 恵子	附属特別支援学校	加賀谷 紀
英語科研究会	土屋 陽子		

◆ 5月11日(水) 第1回定例研究会のお知らせ ◆

研究会	時間 (断りのない限り5/11)	会場	部屋
国語科研究会	16:00 -	教育学部	中教室
社会科研究会	16:15 -	教育学部	情報教育演習室(2F)
算数・数学研究会	16:00 -	附属中学校	第一目的室
理科研究会	16:00 -	附属中学校	理科室
音楽科研究会	16:00 -	教育学部	音楽科教育演習室
図工・美術科研究会	16:10 -	教育学部	美術教材室(4F)
保健体育科研究会	16:10 -	附属小学校	6年3組教室
技術科研究会	16:10 -	附属中学校	技術室
家庭科研究会	16:10 -	教育学部	204 教室
英語科研究会	16:00 -	教育学部	英語コミュニケーション演習室(2F)
養護教諭・教育保健研究会	16:00 -	教育学部	養護学演習保健室
幼児教育研究会	16:00 -	教育学部	幼児教育講義室(4F)
生徒指導・教育相談研究会	16:10 - (5/12)	—	Teamsを使用

道徳教育研究会	16:10 -	教育学部および Teams	教育科学資料室および Teams(初参加の方はできる限り教育科学資料室にお越しください)
特別支援教育研究会	16:10 -	附属特別支援学校	図書室

◆ 「令和4年度 協同研主催 学部・附属教員合同懇親会」の中止お知らせ ◆

協同研主催 学部・附属教員合同懇親会はコロナウィルの感染拡大予防対策の一環として中止することとなりました。

■ 第一回 協同研推進委員会では、今年度も公開研究会を合同で行い、対面を前提としてすすめていくことになりました。しかし、まだ、コロナの状況次第で対面がかなわない場合も見据えて、準備をしていなくてはなりません。オンライン、ハイブリッドの準備を合同公開研実行委員会では用意していくこととしています。

■ 研究会ごとで、その研究にふさわしい方法での発表を行って下さい。また、小中は、今年度から東北附連のローテーションに合わせて、次の3グループに分かれることとなりました。

- A 合同公開研での発表 国語・理科・音楽・(特活)
- B 東北附連での発表 社会・生活・英語・保健体育・養護教諭
- C 大きな発表がない教科 上記以外の教科

なお、幼稚園と特別支援学校は、今年度は公開研の開催は隔年となっており、令和四年度は公開研を行いません。

■ 今年度は合同公開研実行委員会を強化し、よりスムーズな運営ができるようところがけます。

■ クロスロードのリポジット化にもなっており、いくつかの改善を行っていくと考えています。詳細については現在検討中です。

■ 共同研究奨励費がより使いやすく、研究を推進するためのものになるよう改善をはかろうと考えています。近く、お知らせいたします。

<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>
委員長 宮崎充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)
発行担当 松本恵美 (e-matsu430@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

No.2 (2022.7.4)

◆ 7月6日（水）第2回定例研究会のお知らせ ◆

研究会	時間 (断りのない限り 7/6)	会場	部屋
国語研究会	16:30 -	附属小	図書室
社会科研究会	16:15 -	附属小	第二多目的教室
算数・数学研究会	16:00 -	附属中	多目的スペース 1
理科研究会	16:00 -	附属小	理科室
音楽科研究会	16:00 -	大学	音楽科教育演習室
図工・美術科研究会	16:10 -	附属小	図工室
保健体育科研究会	16:10 -	附属小	6年3組教室
技術科研究会	16:10 -	附属中	技術室
家庭科研究会	16:10 -	大学	201 教室
英語科研究会	16:00 -	附属中	メディアスペース 3
養護教育・教育保健研究会	16:10 -	大学	養護学演習保健室
幼児教育研究会	16:00 -	附属幼稚園	ホール
生徒指導・教育相談研究会	16:10 - (6/29)	附属小	図書室
道徳教育研究会	16:00 -	大学およびオンライン	教育科学資料室・Teams
特別支援教育研究会	16:10 -	附属特別支援学校	図書室

◆ 第1回定例研究会報告 ◆

国語科研究会：自己紹介を行ったのち、今年度の公開研究会の日程・内容などについて情報を共有し、準備の進め方などについて打ち合わせを行った。また、井伏鱒二「鯉」で読書会を行い、「白い鯉」が象徴することについて意見を交わすなどして、読みを交流して深めていく時間を設けた。

社会科研究会：自己紹介の後、今年度の研究計画について協議した。その後、附属小・附属中から、それぞれ「目指すべき子ども像」について提案して頂き、議論を深めた。次回は、「目指すべき子ども像」に対応した実践的な手立てを検討することとなった。

算数・数学研究会：自己紹介の後、今年度の研究計画（小学校、中学校）について議論した。その後、8月24日（水）に予定されている研究授業（小学校）に関する授業づくりについて議論した。

理科研究会：メンバー確認ののち、今年度の公開研究会についての情報交換を行った。授業内容としては、附属中学校では「ウニの発生の観察」を題材とした授業を提案することを考えており、附属小学校は諸事情により未定であった（6月中旬に「電磁石のはたらき」に確定）。また、公開研究会当日における協議会の運営についても情報共有が行われた。

音楽科研究会：公開研究会の日程、当日のスケジュールなど概要について確認し、公開授業の内容や、それまでの準備等について話し合いをした。また、音楽科研究会としての共同研究の方向性についても話し合い、昨年度までの研究を継続しつつ発展させていくことを共通理解した。

図工・美術科研究会：顔合わせと近況報告をおこなった。各メンバーがすすめるプロジェクトなどが紹介され、どのように協力し合えるか話し合った。

保健体育科研究会：会員、本研究会の目的、年間予定の確認を行った。合同研究会及び東北府連への関わり方について情報共有した。保体授業実践、健康教育の継続した実践及び特支での障害者スポーツ推進プロジェクトの計画等について確認した。

技術科研究会：自己紹介の後、年度計画を確認した。また、附属中高谷先生より現在進行中の研究に関して報告があった。

家庭科研究会：今年度の事業計画の確認を行った。「調理実習における安全教育」をテーマに、大学教員による基礎研究、大学の授業における題材構想、現場における授業の工夫を組み合わせ研究をすすめ進めていくこと、共同研究奨励費への申請を行うことを共有した。

英語科研究会：初回のため簡単な自己紹介をした後、今後の日程の確認と、東北附連についての内容等について情報を共有した。その際、小・中連携の英語学習について意見交換がなされた。また、後半では佐藤剛先生から語彙サイズテストの結果報告があり、意見交換を行った。

養護教諭・教育保健研究会：今年度は養護教諭が東北附連における発表の担当になっている。発表予定者である西岡先生より附属中学校で収集された「心の天気」に関する話題提供があり、研究報告としてどのようにまとめていくか意見交換を行った。

幼児教育研究会：メンバーの確認および会員の自己紹介を行い、今年度の年間研究計画を検討した。その後、今年度より実施するビデオカンファレンスの具体的な実施方法や方向性について意見交換を行った。

生徒指導・教育相談研究会：初回のため、簡単な自己紹介の後、今後の研究会の日程と内容について打ち合わせた。今年度は昨年度を踏襲し、各校の委員から事例を募り、支援の在り方や方向性について検討していくことを確認した。

道徳教育研究会：本年度の参加メンバーを確認し、それぞれ自己紹介を行った後、本年度の活動方針や計画について話し合った。また、小学校、中学校、特別支援学校の、それぞれの場において、道徳教育が現在どのような課題を抱えているのかについて話し合った。

特別支援教育研究会：小学部と附属小学校との交流学習について、これまでの実施経過を踏まえて、より個別の交流を促進、相互理解を深めていくため方策等を検討した。

<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>

委員長 宮崎充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)
発行担当 松本恵美 (e-matsu430@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

臨時号 (2022.10.31)

協同研通信臨時号として、第2回定例研究会報告と公開研についてお知らせします。

◆ 第2回定例研究会報告 ◆

国語科研究会： 合同研究発表会で小学校が行う授業について、検討を行った。本教材である「ありの行列」と合わせて読む副教材（読書材）のご提案が複数あったので、挙げられた副教材について活用の意図や授業の目的をふまえながら比較・検討した。また協議を通してつけたい力に資する教材とはどのようなものなのかについて考えを深めることができた。

社会科研究会： 東北附連に向けた報告内容について協議を行った。附属小から「ごみ」を題材にした授業構想が提案され、税負担や家庭との連携、外部への発信などの諸点から検討を深めた。附属中からはクリティカル・シンキングを育む授業およびカリキュラム構想が提案され、本年度の焦点について議論を深めた。

算数・数学研究会： 校内研（小学校）の授業に関する学習指導案の検討、および、一人一研（中学校）の授業に関する学習指導案の検討を行った。

理科研究会： 合同公開研究会における授業の実施にあたり、第1回に引き続いて小・中の授業の具体化を図った。それに伴い、授業までの行程を確認した。

音楽科研究会： 公開研究会における研究授業の内容、及び実施までの取り組みについて協議をし、打ち合わせも含めて今後のスケジュールについて確認をした。また、昨年度の研究を継続していくことについても確認をした。

図工・美術科研究会： 教育学部の佐藤絵里子先生（美術科教育）から造形あそびに関する発表があった。理論、歴史、実際、評価などの観点から活発な意見交換がおこなわれた。

保健体育科研究会： 附特支：障害者スポーツ推進の弘前大学モデル（わいわいスポーツクラブ等）の紹介及びVR体験を行った。附小：5年生単元「キンボール」の授業構想説明があった。附中：健康教育の構想説明があった。

技術科研究会： 廣瀬准教授より、「木材加工研究室の紹介」と題して、りんご剪定枝和紙や活性炭等に関する話題提供があった。その後、りんごの木の加工法やりんご剪定枝和紙の使い方等に関して、メンバーと意見交換した。

家庭科研究会： 共同研究の進行状況について共有した。また、附小の5年生を対象として、9月に実践を予定している「調理実習における安全教育」をテーマにした授業の指導案検討を行った。

英語科研究会： Tuesday 実習、集中実習、共同研究のテーマと進め方などについて議論した。また、小中連携について、来年度の公開研での内容の統一について意見を交換した。

養護教諭・教育保健研究会： 10月21日に実施される東北附連において附属中学校養護教諭の西岡丸佳先生が発表する「中学生の心の健康状態の可視化ー「こころの天気」の事例よりー」について、発表内容やスライド資料の詳細について議論した。

幼児教育研究会： 最初に松本助教が附属幼稚園年長児クラスの動画を使用しながら、事例の紹介を行った。動画は、附属幼稚園で行われたイベントの準備および当日の様子をまとめたものであった。その後グループに分かれ、主に「遊び込む子どもの姿」や「協同性」について意見交換を行った。

生徒指導・教育相談研究会： 附属小において気になる児童生徒の事例について、支援の方針や日常での具体的な関わり方を検討した。また、近年の小中学生に共通する教育相談事案の傾向について意見交換を行った。

道徳教育研究会： 小学校1年生に対する道徳教育のあり方について意見交換を行った。具体的にはスタートカリキュラムの有無によって小学校1年生の道徳性に変化が見られるのか、就小学校1年生にどのようにして自我関与させることが可能か、などを話し合った。

特別支援教育研究会： 「他害行動のある生徒が他の生徒との繋がりを作る学習活動 自己認識・自己理解を高める自立活動」との事例提供をもとに、①オンラインを用いた学習活動と ②自立活動の学習内容の2つのテーマに分かれ、協議した。

◆ 公開研について ◆

11月5日【土】9:00-15:10

詳細については

ALL 教育学部の R4 合同公開研チャネルのチラシ。または、以下の URL をご覧ください。

https://hirosakiuniversity.sharepoint.com/:b:/r/sites/All/Shared%20Documents/R4%E5%90%88%E5%90%8C%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%A0%94/koukai2_compressed.pdf?csf=1&web=1&e=hCwr1q

詳細に関しては公開研 HP でご覧になれます。(教育学部トップページのバナーから入れます。)

<https://sites.google.com/fuchu.edu.hirosaki-u.ac.jp/public-research-conference>

学部の先生方も参加申込が必要です。

以下の Form で参加申込をお願いします。(※切の 10/21 を延長いたします。)

<https://forms.gle/RL9r6KzUh1YnabHKA>

**教員養成学研究開発センター主催 FD 研修
「子どもたちの自律」をどう育てたか。**

また、公開研前日、講師の西郷孝彦先生との情報交換会を行います。

11/4【金】 17:00-18:00

教員養成学センター (学部 4F)

西郷先生は世田谷区立桜丘中学校の元校長で「校則なし」を実現し、子どもたちの自律を育み、インクルーシブな学校を実践された方です。どのように学校づくり、研修を進めたかについて、質疑を中心としながら情報交換を行っていきたいと思います。

会場は参加者が多くなれば別会場としたいと思います。参加ご希望の方は下記 URL でお申し込み下さい。

<https://forms.office.com/r/vEZqWubGzZ>



<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>
委員長 宮崎充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)
発行担当 松本恵美 (e-matsu430@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

No.3 (2022.11.28)

◆ 11月30日（水）第3回定例研究会のお知らせ ◆

研究会	時間 (断りのない限り 11/30)	会場	部屋
国語科研究会	16:30	附属中学校	図書室
社会科研究会	16:15	附属中学校	メディア 2
算数・数学研究会	-		
理科研究会	16:00	附属小学校	理科室
音楽科研究会	16:00	教育学部	音楽科教育演習室
図工・美術科研究会	16:10	附属中学校	美術室
保健体育科研究会	16:10	附属小学校	家庭科室
技術科研究会	-		
家庭科研究会	16:10	教育学部	201 教室
英語科研究会	16:00	附属小学校	第2多目的教室
養護教育・教育保健研究会	16:10	教育学部	養護学演習保健室
幼児教育研究会	16:00	附属特別支援 学校	
生徒指導・教育相談研究会	-		
道徳教育研究会	16:00	教育学部およ びオンライン	教育科学資料室および Teams
特別支援教育研究会	-		

「クロスロード」の電子化されます。電子化により、リポジトリがこれまでよりも広範かつ、容易に多くの人の目に触れることとなります。そのため、投稿に際して、いくつかのチェックを行うようにしてください。

【覚書】 「クロスロード投稿に関する覚書」

クロスロードの投稿に当たっては、次のチェックを行って下さい。

- 引用が盗用、剽窃に当たらないように適切に行われていますか。
- 引用文献等が文末に適切に示されていますか。
- プライバシーの保護に関し、写真、資料等の掲載の許諾が適切に行われていますか。
- アンケート等をとる場合は、利用目的を示し、回答者の合意を得ていますか。
- 要配慮個人情報等を取り扱う場合は、研究対象が特定されない等の情報の適切な秘匿・加工等が行われていますか。また、学内倫理委員会の審査を経ていますか。

このチェックは投稿論文の査読をするものではなく、クロスロードの電子化にあたって、プライバシーの保護、著作権の保護を適切に行えるようにするためのものです。

附属学校の先生のみでの投稿される場合等で、不明のことがあれば、該当する学問分野の学部教員・教職大学院教員にご相談下さい。

該当する学問分野の教員が見つからない場合、投稿に当たっての不明のことがあれば、投稿の前に協同研推進委員会にお問い合わせください。

<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>

委員長 宮崎充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)

発行担当 松本恵美 (e-matsu430@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

No.4 (2023.1.11)

◆ 1月18日（水）第4回定例研究会のお知らせ ◆

1月18日は全体会とし、2階大教室とオンラインで行います。

16:00-16:45

オンラインの会議：TeamsのAll教育学部一般チャンネル

時間は45分程度を予定しています。

終了後は各部会でご自由にお使い下さい。

【議題】

- 令和4年度の公開研の総括と令和5年度の方針

今年度の公開研と研究推進体制についての報告

質疑応答

- 附属での研究の進め方について

先日、クロスロードに関する投稿の覚書をみなさんにお知らせしました。

その後、附属小学校での研究をめぐって、保護者からの申し立てがあり、対応するという事態がありました。研究の進め方自体に、瑕疵はなかったものと考えますが、ビッグデータ時代を迎え、研究がこれまで以上に発展する反面、データの扱い、インフォームドコンセントの取り方、保護者との研究同意のあり方等、いくつか考えなくてはいけないことが生じています。

来年度4月の附属学校園保護者との同意のあり方に向けて、検討を開始していますが、問題が多岐にわたり、成案をお示しして検討することができる段階ではありません。

しかしながら、問題を共有し、各学問分野での研究倫理のあり方等を交流しておく必要があると考えています。

簡単な経過報告とみなさんからのご意見を賜りたいと思っています。

<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>

委員長 宮崎充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)

発行担当 松本恵美 (e-matsu430@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

No.5 (2023.1.31)

◆ 2月1日（水）第5回定例研究会のお知らせ ◆

研究会	時間 (断りのない限り 2/1)	会場	部屋
国語科研究会	16:00-	教育学部	204 教室
社会科研究会	16:15-	教育学部	302 教室
算数・数学研究会	16:00-	附属中学校	多目的スペース 1
理科研究会	16:00-	附属中学校	理科室
音楽科研究会	16:00-	教育学部	音楽科教育演習室
図工・美術科研究会	16:10-	特別支援学校	高等部棟 3 階教生指導室
保健体育科研究会	16:10-	附属小学校	家庭科室
技術科研究会	16:10-	附属中学校	技術室
家庭科研究会	16:10-	教育学部	201 教室
英語科研究会	16:00-	教育学部	301 講義室
養護教育・教育保健研究会	16:10-	教育学部	養護学演習保健室
幼児教育研究会	16:00-	附属幼稚園	会議室
生徒指導・教育相談研究会	16:10- (2/2)	附属中学校	統括校長室
道徳教育研究会	16:30- (2/3)	教育学部および オンライン	教育科学資料室およびチー ムズ
特別支援教育研究会	16:10-	附属特別支援学 校	図書室

◆ 第3回定例研究会報告 ◆

国語科研究会： 中学校3年生の定番教材「故郷」(魯迅)について読書会を通して研究を行った。高等学校における科目編成の変更により、小学校・中学校における文学の授業の重要性が相対的に増しているとも考えられる中、義務教育段階において文学で学ぶことの内容や意義について意見を交流した。

社会科研究会： 東北附連での報告を取り上げ、議論を深めた。小学校・中学校それぞれの全体的な状況について確認したのち、個別の実践を取り上げて、その意義や課題について検討を深めた。

算数・数学研究会： 一人一研の実践報告(中1)および日常的な実践の報告(小1)があり、学習指導案および授業プロトコル等をもとにした振り返りと議論が行われた。

理科研究会： 学部教員が、附属小学校および附属中学校において実施した授業について、紹介を行った。また、学部教員が教員研修で用いたSTEAM教材について紹介した。

音楽科研究会： 公開研について振り返り、その成果と今後の方向性について協議した。公開研のアンケート及び児童の感想から実践における有効性が示された。また、昨年度から継続しているQRコードを用いた合同研究の実践についても報告が為された。

図工・美術科研究会： 各学校および教員の近況の情報交換をするともに、刃物指導の在り方について富田が発表した。

保健体育研究会： 附特支からスポーツ庁委託事業の進捗、地域：特支の部活動の説明があった。附小から6年生単元「体力アップ大作戦」の授業構想及び実践状況の説明があった。附中から健康教育・保健体育科学習指導実践(1人1研)の説明があった。

技術科研究会： 附属特別支援学校 工藤清和先生、三橋寛子先生より、「附属特別支援学校の紹介」と題して、織物や木材加工等に関する話題提供があった。その後、それぞれの加工法やその他課題等に関して、メンバーと意見交換した。

家庭科研究会： 今年度の共同研究テーマ「調理実習における安全教育」の授業実践について、附属小の小田桐先生から成果と課題の報告がなされた。また、報告を基に、次年度以降の研究の方向性についても協議した。

英語科研究会： 来年度合同公開研に向け、小中連携した共通テーマを設けるにあたりどのような可能性があるかについて話し合いが行われた。現段階で可能性がありそうな共通テーマの例として「やりとり」「Junior high school life」「small talk」などが挙げられた。次回定例会で話し合い方向性を共有したい。その他、実習について附属小・中学校よりそれぞれ報告、改善点などが出された。

養護教諭・教育保健研究会： 東北附連における「こころの天気」に関する発表の振り返り及び参加当日の様子についての報告があった。また、学部教員より附属学校の保健室データ等を活用した研究開始の報告と概要に関する説明があった。

幼児教育研究会： 附属特別支援学校にて開催した。特別支援学校教員による学年別の実践例の紹介の後、質疑応答を行った。また、環境構成の工夫について学ぶために、学内の施設見学も行った。

生徒指導・教育相談研究会： 附属特別支援学校の對馬大成先生より、いじめの未然防止に向けた実践事例が紹介され、特別支援学校ならではの配慮や工夫について、各先生から活発な意見交換が行われた。

道徳教育研究会： 特別支援学校における道徳教育のあり方について検討した。附属中学校の佐々木篤史先生より、附属特別支援学校にて道徳の研究授業を行う提案があり、方向性について検討した。参考とするため、12月13日に附属特別支援学校高等部の授業参観を行うことになった。

特別支援教育研究会： (中止)

<< 協同研究通信に関する問い合わせ先 >>

委員長 宮崎充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)

発行担当 松本恵美 (e-matsu430@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

No.6 (2023.2.28)

◆ 協同研推進委員より ◆ 来年度の協同研日程のお知らせ

第1回	5月10日	水	第3回	11月29日	水
第2回	7月5日	水	第4回	1月17日	水
東北附連	10月19日・20日	木・金	第5回	1月31日	水
合同公開研	11月2日	木			

- 本年度の協同研関連の日程は上記の通りです。
- 本来、11月に公開研が移り、また、合同、発表教科のローテーションが生まれたことにより、従来の日程も見直さなくてはならないと思っておりますが、今年度は対応できていません。
- 本年度については、公開研で発表予定のある研究会は第3回以降を公開研の前に移動するなど、示された日程を各研究会において柔軟に運用してください。
- また、従来は5月に懇親会を開催していましたが、まだ、大学全体での飲食会についての方針が出されていないため、5月の開催はありません。開催の有無については追ってお知らせします。

◆ 第5回定例研究会報告 ◆

国語科研究会： 小学校6年の定番教材である宮沢賢治「やまなし」で読書会を行った。現行の教科書では、宮沢賢治の伝記と合わせて作品を読み味わうことになっているが、読むことの力を育てる面と読書指導の面から、そのことの是非について考えを深めることができた。

社会科研究会： 次年度の公開授業研究会に向けて、「個」に立脚した社会科授業研究の今日的な意味・意義や研究の方法・手続きなどについて、附属中学校の提案をもとに議論を深めた。具体的には、子どもたち個々の学びの足跡を継続的に追う授業研究の方法や、それを公開授業研究会でいかに共有するか、「個」が立ち現れる学習場面の作り方などを検討した。

算数・数学研究会： 一人一研の実践報告（中学校）として、小学校教材を用いて、単元の導入場面（中3：相似な図形）を豊かな活動にしようとする実践の報告があった。また、日常の実践報告（小学校）として、九九を活用し多様な考えが表出する問題を用いた実践の報告があった。その他、小学校においてつまづきやすい内容に関する報告があった。これらの報告に対する意見交換を行った。

理科研究会： 附属中学校の齊藤克正先生が作成した資料をもとにして、3年後の公開研究会の担当に向けてのロードマップの確認を行った。これに伴い、附属中学校の研究テーマや、附小・附中の校内研などの予定について意見交換した。

音楽科研究会： 前回の協同研の反省と今年度の活動について振り返りを行い、その内容をもとに、次年度の活動の方向性について協議をした。自律という主題についても各自、意見を交換しながら、今年度の研究の成果を踏まえながら研究を継続し、その成果をまとめていくことについても確認をした。

園工・美術科研究会： 特別支援学校を会場とし、同校の藤田依里子先生より活動の様子の報告があった。毎年おこなっている「造形作品展」の紹介があり、来年以降の方向性について討議した。

保健体育研究会： 附特支かわいわいぼ「ツクツク」の説明があった。附小から健康教育のまとめ報告の確認、及び次年度の健康教育に関わる相談があった。附中から「共に健康に生きる社会」の実践報告、及び次年度の附中研究テーマの考え方の説明があった。

技術科研究会： 上之園教授より、「STEAM教育について」と題して、STEAM教育の詳細や課題等に関する話題提供があった。その後、STEAM教育をどのように「技術」へ反映させるか等に関して、メンバーと意見交換した。

家庭科研究会： 小中の家庭科担当教員を対象として、2月中旬に開催を予定している教員研修会「実践的・体験的活動を取り入れた家庭科授業づくりのヒント①」の講師である谷本先生から、研修会の概要を説明していただき協議を行った。

英語科研究会： 来年度公開研に向けて、小・中連携の可能性について議論した。学部の佐藤剛先生からのご提案があり、それを踏まえて、連携に向けて今後どのように取り組んでいくかを話し合った。その他、スモール・トークの評価についてなど、意見交換を行った。

養護教諭・教育保健研究会： 本研究会では幼児・児童・生徒の心身の健康をテーマとして取り扱うことが多いことから、研究会における研究実施および発表の際の研究倫理の考え方について意見交換を行った。附属学校園で実施される実践研究については、「クロスロード：弘前大学教育学部研究紀要」、「卒業研究」、「公開研」、「東北附連」での発表を主とし、研究倫理については必要事項について配慮されているかを関係する大学教員の確認を経ることとした。学会や学術誌における発表については、必要に応じて弘前大学教育学部、弘前大学大学院保健学研究科、学会が設置する研究倫理委員会が審査を受けることとした。

幼児教育研究会： 今年度附属幼稚園で実施した研究の概要について附属幼稚園の松山先生よりご報告いただいた。その後グループに分かれ、各学年における「自律性」や「協同性」を育む保育について意見交換を行った。最後に、今年度の結果を踏まえ、来年度の研究をどのように展開させていくかについて議論を行った。

生徒指導・教育相談研究会： 附属中学校において担当の先生より事例が提供され、参加者同士で意見交換を行った。発達特性に応じた配慮や保護者との連携、小中学校間での情報共有の意義など、多岐にわたる議論が展開された。

道徳教育研究会： 附属中学校の佐々木先生が附属特別支援学校で行う道徳授業について、日程及び内容の検討を行った。授業日は2月16日（木）11:00-12:00となり、教材は「仏の銀蔵」を思考ツールを用いつつ、役割演技を行って生徒に良心について考えさせることになった。

特別支援教育研究会： 増田先生より、「支援に向けた感覚情報の活用」として、「感覚刺激機能」や「感覚プロフィール」について、さらに「感覚プロフィール」を用いた事例の紹介などを始め、話題提供をいただき、質疑応答を行った。

<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>

委員長 宮崎充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)

発行担当 松本恵美 (e-matsu430@hirosaki-u.ac.jp)